

高精度偽造米100ドルの鑑定方法

全体写真

発見日時と場所

2017年10月中～下旬 都内

紫外線の蛍光発色、磁性インクを再現しており、紙幣鑑定機を通過する可能性がある。

1.はじめに

紙幣鑑定機を通過する可能性が高く、対策ソフトが完成し、使用機をバージョンアップするまでは当面本マニュアルを参照し、充分注意して買取り業務を行って下さい。

NC1200型

NC1300型

IH2600型

ST100型は通過する可能性があります。

2.可視光印刷(表面)

基本的には平版印刷(オフセット)で、3Dホログラムや混抄繊維は再現されていない。ただし磁性インクを使用しており、紫外線の蛍光発色等鑑定ソフトウェアとしては真正券の近似値をもっている。

3.ホログラム(表面)

3Dリボンのホログラムは再現されていない。鑑定のポイントとなる。

4.蛍光インク(表面)

表面のインク壺に紫外線(ブラックライト)を照射すると偽造券は蛍光は黄色く発色する。真正券では発色は見られない。当面はここをチェック。

偽



真



(可視光写真)

偽



真



(紫外線蛍光写真)

偽造券の記番号

KF3600～、KF4700～、KF5800～ではじまる例が見られる。しかしながら、同じ番号は確認できない。1枚ずつ異なる記番号が施されている。

5. 赤外線インク(表面)

赤外線を照射すると偽造券ではインク壺が消えて見える。さらに右下メタリック印刷の金種マーク「100」も消えたように見える。

偽



6. 透過光(表面)

・セキュリティスレッドが真正券では左側縦方向に混抄されているが偽造券では存在しない。
・すかしについて、偽造券では裏面に印刷を施し再現している。
・3Dリボンについて、真正券では埋設部分(肖像画目と襟の右部分)が濃く見える。偽造券では存在しない。

真



(赤外光写真)

7. サイズ

用紙サイズ、印刷画像サイズは殆ど変わりがない。

偽



8. 紙厚

真正券、偽造券とも0.1mmでほぼ同じ厚さである。

真



(透過光写真)

偽造券のサイズ(mm)

偽造券 = 用紙156.0×66.4 画像142.7×58.9 厚0.1

真正券 = 用紙156.3×66.4 画像147.8×59.2 厚0.1

9. 視光印刷(裏面)

やや偽造券のほうが色合いが濃いめに感じる。右端の横向き金種マーク「100」は肉眼による視認鑑定でもにじんで見える。

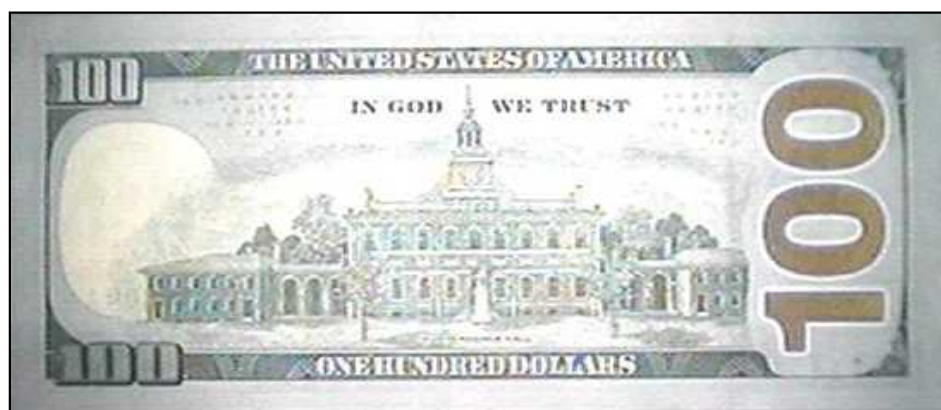
偽



10. ホログラム(裏面)

3Dリボンのホログラムは真正券、偽造券とも裏面にはあらわれない。

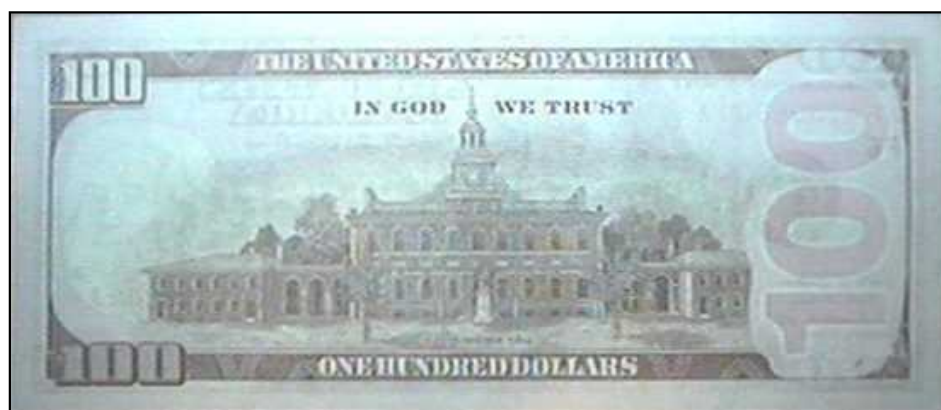
真



11. 蛍光インク(裏面)

・用紙において紫外線による蛍光発色が真正券に対して相当の近似値をもっており、この点高精度と言えるであろう。
 ・セキュリティスレッド部分は真正券では赤く発色しているが偽造券では発色は見られない。
 ・すかし部分について、偽造券では、ぼんやり白くまるい部分の中にすかし(肖像画)が見られる。これは印刷によってすかしを再現している証左と言える。

偽



真



(紫外線蛍光写真)

赤外画像を得る方法

市販のデジタルカメラの中にいわゆるナイトショット機能を仕様として内蔵されている場合は、検体を暗室に置き撮影すると視認画像が得られる。

12. 赤外線インク(裏面)

・帯状に画像が消える。
裏面には真正券においては中央やや左の縦方向に帯状の無色の画線があらわれる。偽造券ではこの帯状に画像が消える現象はあらわれない。

・偽造券では表面に印刷された横向きの金種「100」が消えたように見える。
赤外線鑑定機で当該偽造券を見破る際はチェックポイントとなる。

偽



真



(赤外光写真)

13. 透過光(裏面)

・セキュリティスレッドが真正券では左側縦方向に混抄されているが偽造券では存在しない。
・すかしについて、偽造券では裏面に印刷を施し再現している。

・3Dリボンについて、真正券では埋設部分(肖像画目と襟の右部分)が濃く見える。偽造券では存在しない。

偽



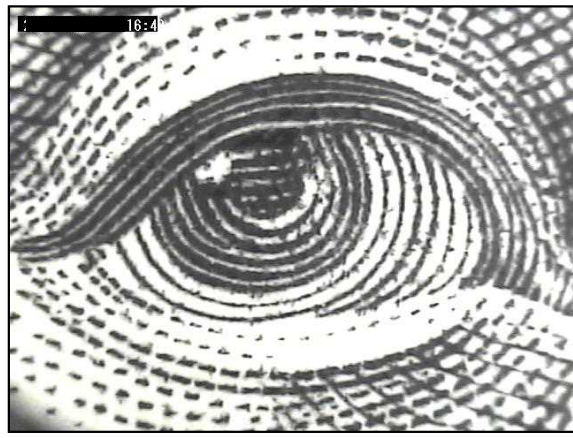
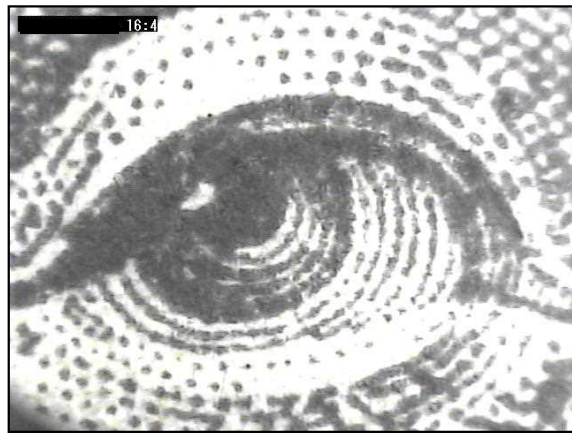
真



(透過光写真)

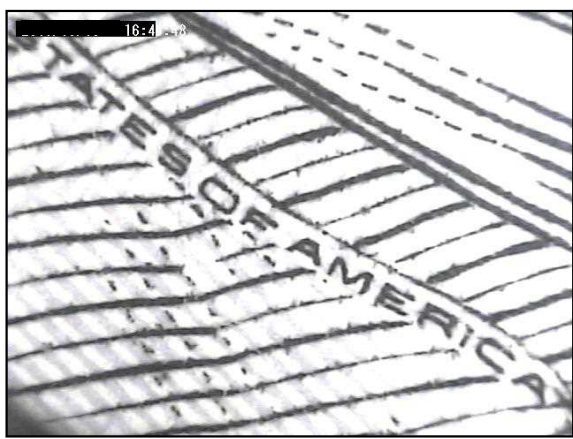
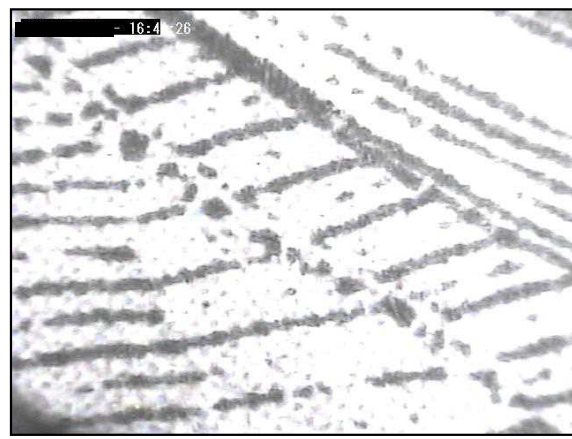
拡大写真

1.表面 肖像画の目 (偽 真)



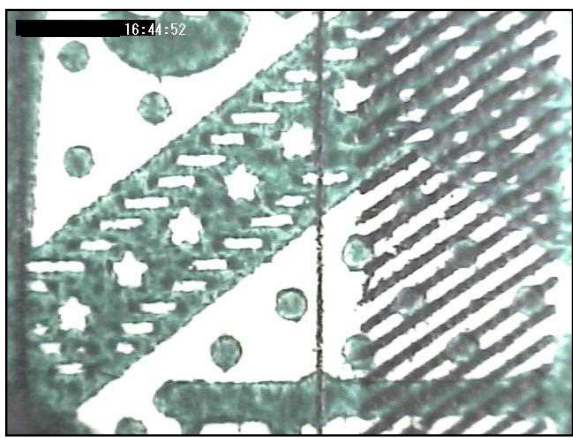
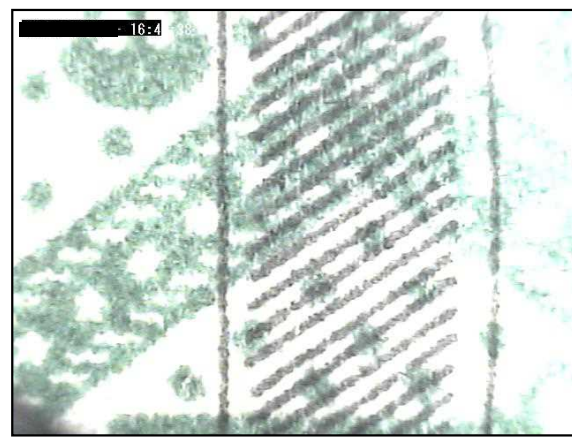
偽造券は平版印刷のため、鮮明さに欠け、画線に盛り上がりがない。真正券は凹版印刷により画線にメリハリが感じられる。

マイクロ文字 (偽 真)



偽造券は平版印刷のため、文字がつぶれて視認できない。真正券は凹版印刷により微細な画線もしっかり画像として印刷様されている。

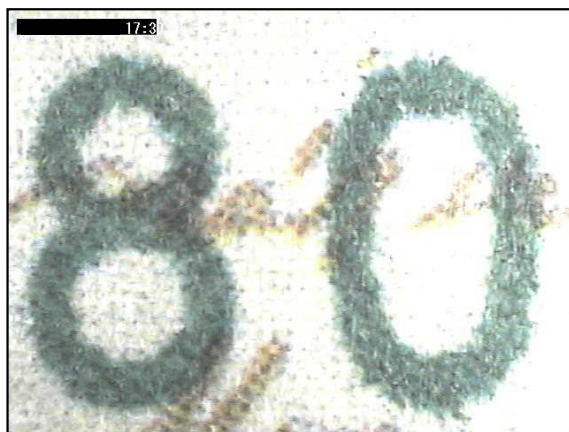
グリーンスタンブ (偽 真)



グリーンスタンブ(財務省印)は凸版印刷のため真正券では画像の輪郭部分が濃く見え、星印のかたちもはっきりしている。偽造券は平版印刷のため、画線が不鮮明で星印のかたちがはっきりしない。

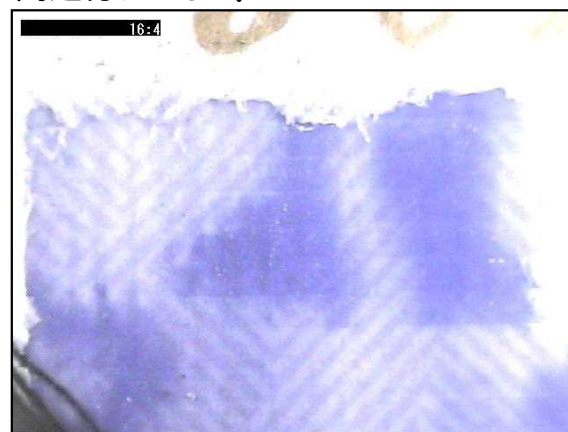
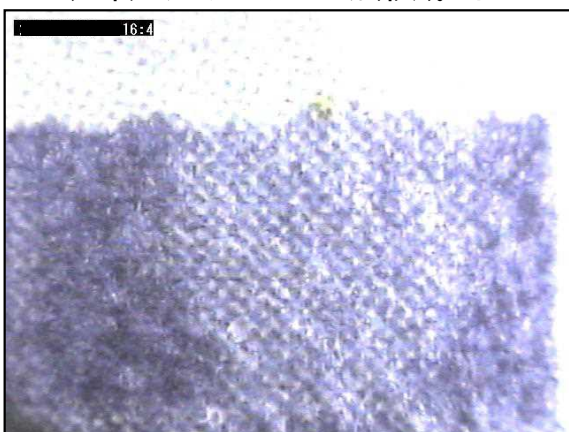


記番号
(偽 真)



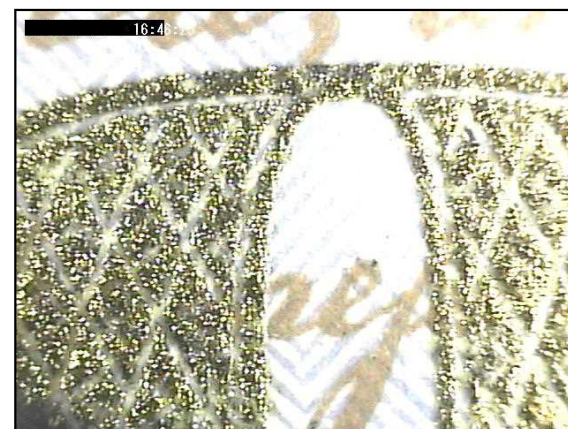
偽造券は平版印刷のため、鮮明さに欠け、画線に盛り上がりがない。真正券は凹版印刷により画線にメリハリが感じられる。真正券では輪郭部分にはインクがはみ出すマージナゾーンが形成されている。偽造券にはない。

3 Dリボン
(偽 真)



3 Dリボンはいわゆるホログラムの一種で、偏光により画像がアニメーションのように動いて見える。真正券では「100」とインク壺が動くように見える。偽造券では平版印刷で再現されているため動かない。紙面に対し窓空き状に埋設されている。

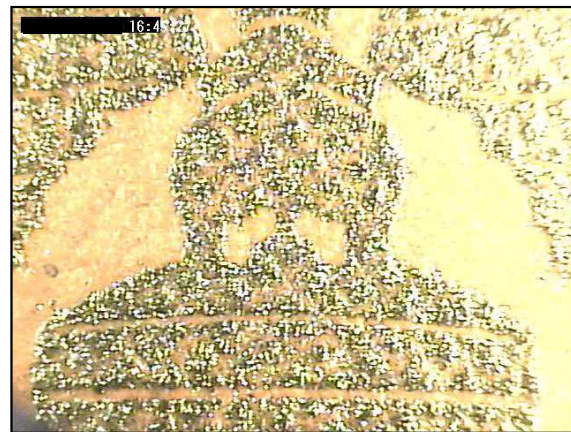
メタリックインク
(偽 真)



金種マーク「100」はOVI(Optical Variable Ink)印刷で方向により黄色、オレンジ、緑にシフティング変色する。真正券では凹版印刷のためインクが紙面に対して盛り上がって見える。偽造券は平版印刷のため、画線が不鮮明で盛り上がりは見られない。

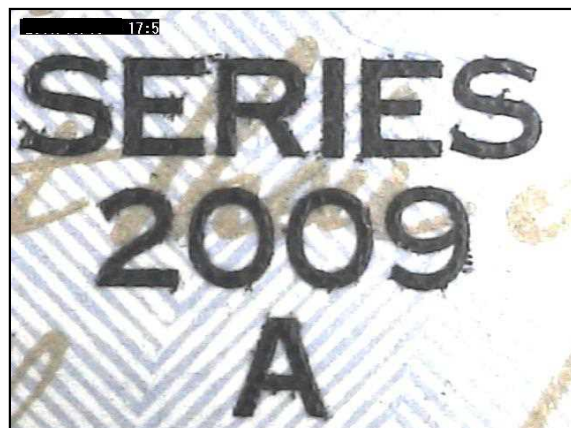
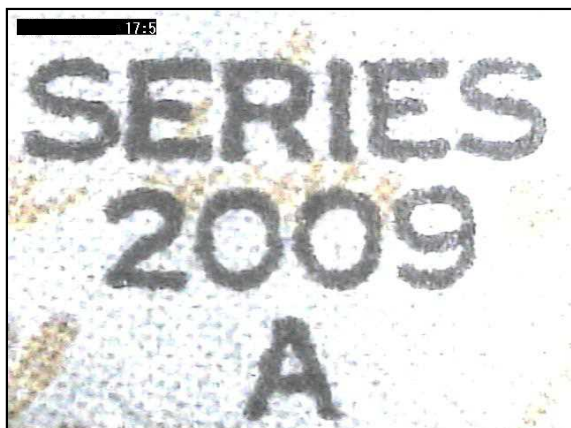


インク壺
(偽 真)



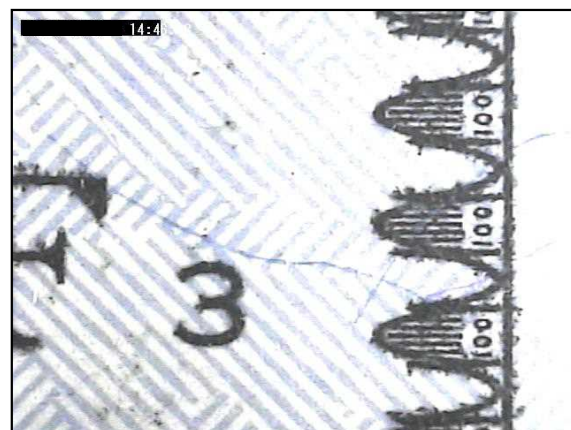
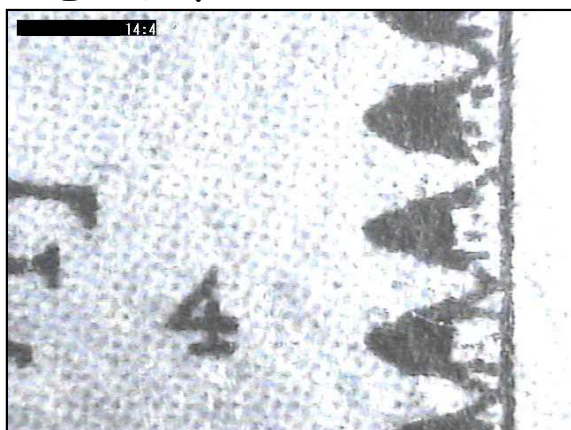
インク壺もOVI(Optical Variable Ink)印刷で方向により黄色、オレンジ、緑にシフティング変色する。真正券ではインクが盛り上がって見える。偽造券は画線が不鮮明で盛り上がりは見られない。

発行年度
(偽 真)

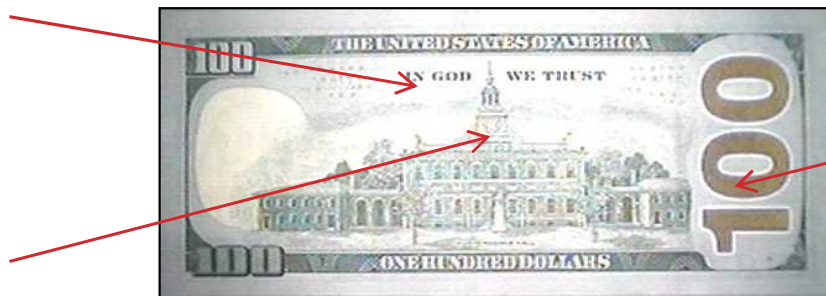


偽造券は平版印刷のため、紙面に対しインクの盛り上がりが見られない。特に「E」字は変形している。真正券は凹版印刷により、文字が盛り上がって見え、メリハリが感じられる。

地紋模様と
マイクロ文字
(偽 真)

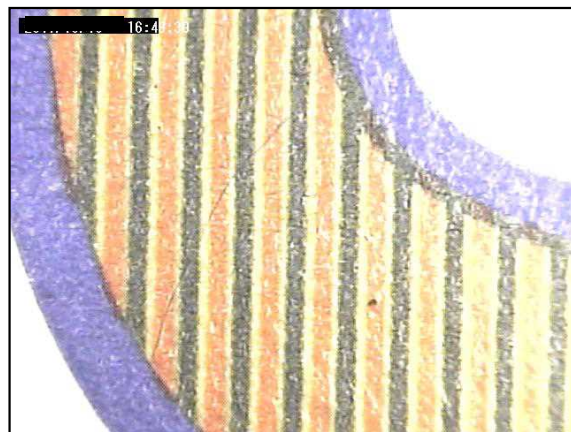


用紙の余白部分を拡大すると、偽造券では赤、青、黒、黄色の網点が見える。対して真正券では、変則的な格子状の縞模様での印刷され、淡いグラデーションとなっている。真正券ではマイクロ文字「100」が見えるが偽造券ではつぶれている。



2.裏面

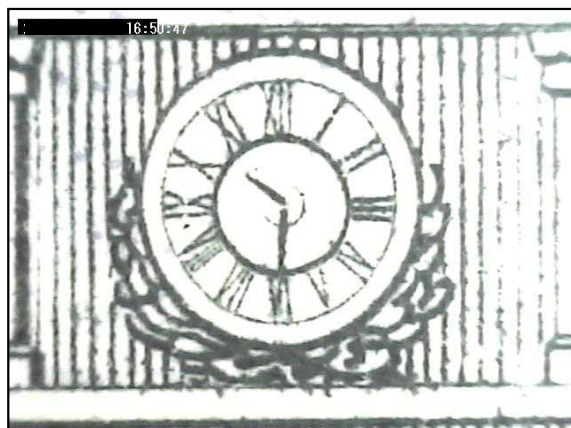
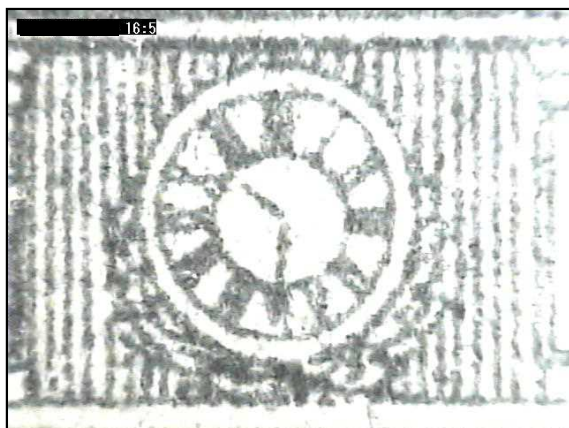
金種マーク
(偽 真)



真正券では複数の色を工程を分けて重ね印刷している。偽造券では色分解の痕跡として網点が見られ、かつ重ね印刷のずれが見られる。そのため黒、赤、黄色のストライプがにじんで見える。

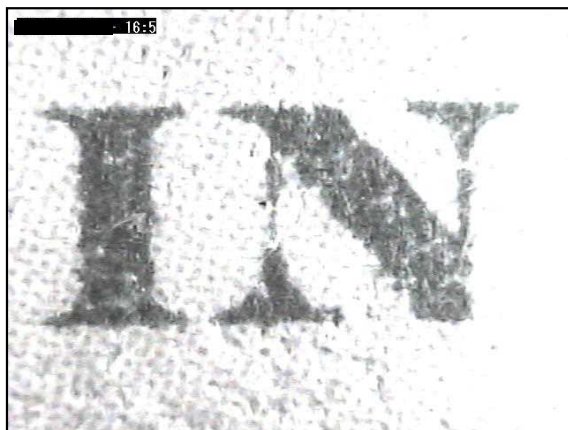
時計

(偽 真)

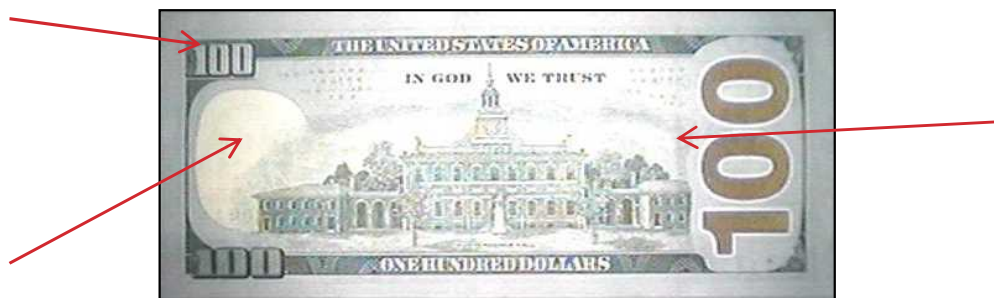


紙幣の中央には独立記念館がデザインされ、時計台が見られる。偽造券、真正券とも10時半を指している。かつてスーパーノートでは偽造券が1~2分進んでいるように見えたが当該偽造券ではその特徴は見られない。

国のモットー
(偽 真)



アメリカ国家のモットー - 「IN GOD WE TRUST」が印刷されている。真正券では、斜めにハッチングが見られるのに対し、偽造券ではハッチングが再現されていない。地紋模様も網点で再現されている。

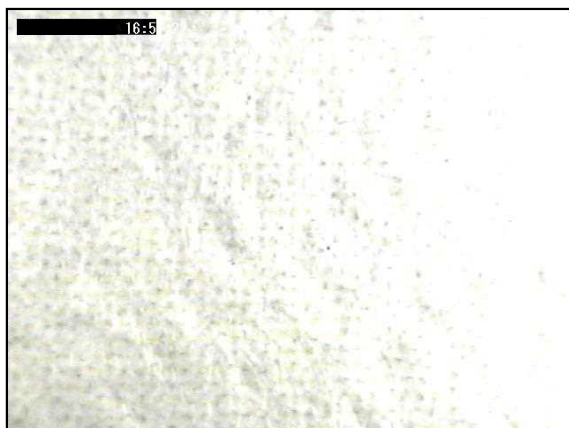


金種マークの
ハッチング
(偽 真)



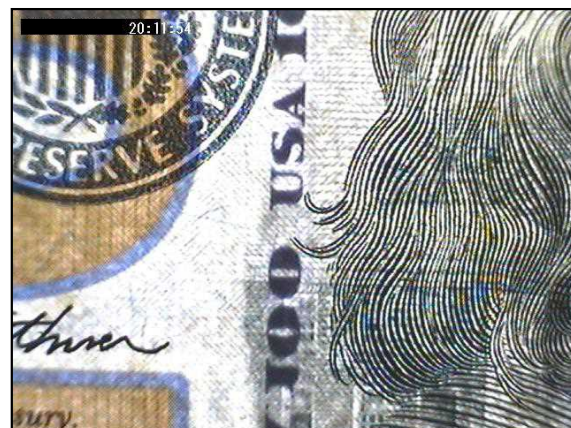
金種マーク「100」のインクが濃く塗布された部分について真正券では、垂直線と斜め線のハッチングが施されている。印刷の工程管理上乾燥を早めるための作業であるが、同時に偽造対策にもなっている。偽造券ではハッチングは見られない。

混抄繊維
(偽 真)

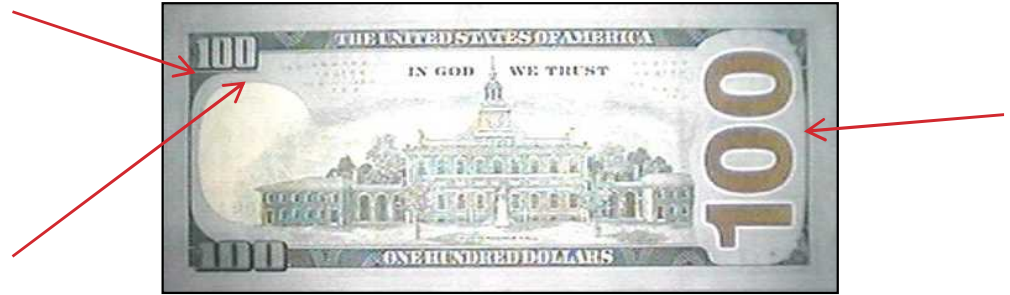


米ドルには赤と青の混抄繊維がすき込まれている。しかしながら、当該偽造券には設計仕様としてドロップしたらしく、再現はまったく見られない。むしろ特筆すべきは用紙全体に細かな凹凸でエンボス加工を施している点で、いわゆる米ドルならではのざらつき感を醸し出している。他には見られない特徴となっている。

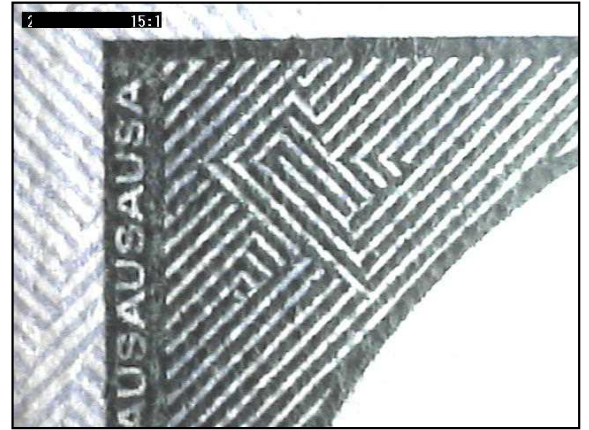
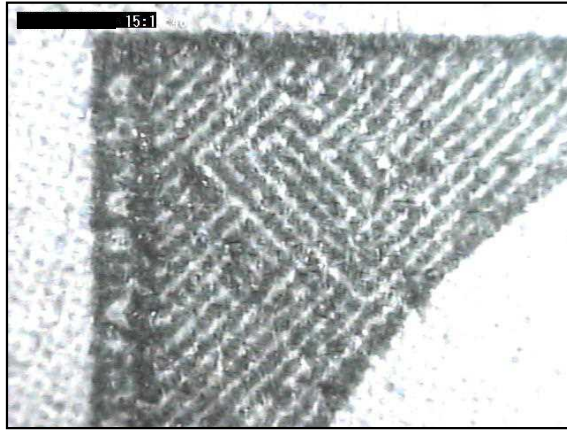
セキュリティー
スレッド
(偽 真)



偽造券ではセキュリティー・スレッドが混抄されていない。うすく見えるのは裏面にうすく印刷が施されているためである。



星マークの
潜像
(偽 真)



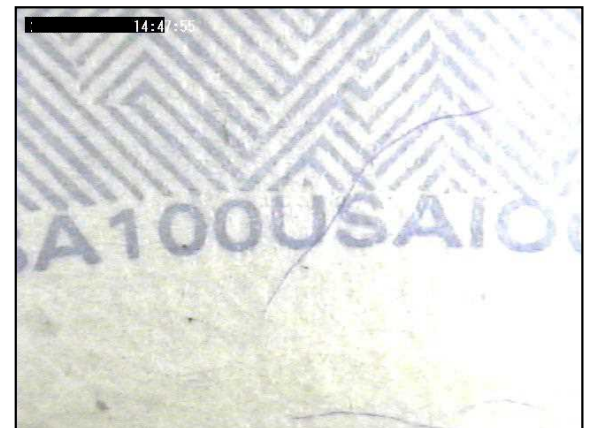
左の上下には星を形取った潜像が見られる。紙面をやや斜めにし、ルーペ等で拡大すると視認しやすい。偽造券では画線が不鮮明のため、潜像も不鮮明でそのかたちを視認できない。

マイクロ文字
白抜き
(偽 真)



左右端の上下方向には帯状の塗抹線が見られるが、実はこの中にU S A U S Aの連続するマイクロ文字が見られる。偽造券では文字がつぶれて白抜きのマイクロ文字が視認できない。偽造券では周囲の地紋模様も網点にかわっている。

淡色の微細
文字
(偽 真)



以上、
日本CDR株式会社
偽造通貨対策研究所
不明点などありましたら
お知らせ下さい。
03-3541-1951
info@cdrjapan.co.jp

すかしの輪郭部分(非印刷面)について、真正券では一回り大きいサイズのマイクロ文字が印刷されている。偽造券では分解されてマイクロ文字と地紋模様が網点化し、視認できない。